

異文化講演会報告

故郷への亡命 —パウル・クレー晩年の創作と その芸術的／政治的意義—

第38回講演会

2021年12月2日(木) 異文化交流研究施設による第38回講演会が大学会館で行われました。講師はパウル・クレー・センターの柿沼万里江先生がつとめました。当センターはスイスのベルンにある多目的な美術館で、柿沼氏は特に作品の来歴や文化財返還問題を研究しています。クレー(1879-1940)はナチスに「退廃芸術家」と烙印を押されるまで、工芸の総合学校「パウハウス」でも教鞭をとる人気画家でした。彼は様々な素材や技法を試すことで、経年変化していくプロセス(崩壊のプロセスも含む)を作品に取り込むような実験をしました。また、作品を通じて政治的なコメントも惜しみませんでした。

クレーの父親はドイツ人であったので、彼の生まれ育ちはスイスですが、ドイツ国籍を保持しました。それゆえナチスが政権を掌握した後は、故郷スイスへ亡命せざるを得ませんでした。亡命後、スイス国籍を何度も政府に申請しましたが拒否され、しかし、皮肉なことに亡くなる直後ようやく許可がおりたのでした。

今回の講演では、クレーの新たな一面が明らかになり、時代や絵画に対する理解が深まって、参加者には大変好評でした。

(報告者：エムデ・フランツ)

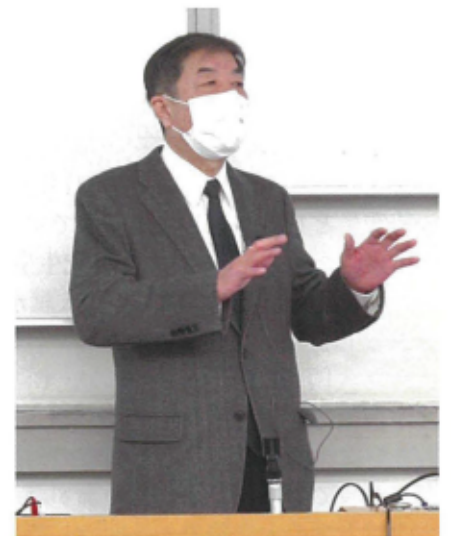
古代テクノポリス山口 —お金と銅と史跡周防鋳銭司跡の調査

第39回講演会

異文化交流研究施設の第39回講演会を2022年1月23日(日)、人文学部の大講義室の対面での講演とZoom配信のハイブリット形式で開催し、講師として考古学専門の人文学部客員教授田中晋作先生を迎えました。先生は平成28年より「古代テクノポリス山口～その解明と地域資産創出を目指して～」というプロジェクトを担当されています。今回はまず「お金」そのものについて省察され、本題の周防鋳銭司跡の発掘や調査について報告が

されました。考古学は過去への一種のタイムトラベルと言えます。奈良の東大寺が、重源の指揮により山口周辺で伐採された木材で作られたことはよく知られていますが、その他に山口地方で製造された様々な金属製品の多くも平安時代にこのお寺の再建に使われたそうです。さらに古代の鋳造所が実在したことについて、9世紀の立派な「和同開珎」の銭ではなく、ゴミ置き場で発掘された鋳損じ銭によって証明されたというのも、素人にとって意外な発見でした。このように「古代テクノポリス」という概念が生き生きと想像できて、とても興味深い講演会でした。

(報告者：エムデ・フランツ)



発行

山口大学人文学部異文化交流研究施設

753-8540 山口市吉田 1677-1 TEL 083-933-5200(代) FAX 083-933-5273

<http://www.hmt.yamaguchi-u.ac.jp>

2022年8月1日